

表 5-5 自治体の地域振興事業への参画状況

参画状況	地研区分	都道府県 N=47	指定都市 N=12	中核市等 N=16	全地研 N=75
参画している地研		13	1	0	14
予算措置の有		8	1	0	9
参画の予定有の地研		0	0	1	1
参画の予定無の地研		34	11	15	60

表 6-1 13,14,15 年度の論文発表数及び口頭発表数 ( ) 内は1年当たりの平均

発表状況	地研区分	都道府県 N=47	指定都市 N=12	中核市等 N=16	全地研 N=75
3カ年の論文	総数	3,007	701	128	3,836
	範囲	3 ~ 325	6 ~ 107	0 ~ 45	0 ~ 325
	1地研当りの平均	64.0 (21.3)	58.4 (19.5)	8.0 (2.7)	51.2 (17.1)
	1人当りの平均	2.06 (0.69)	1.80 (0.60)	0.70 (0.23)	1.89 (0.63)
うち英文論文	総数	593	102	11	706
	範囲	0 ~ 103	0 ~ 42	0 ~ 8	0 ~ 103
1地研当りの平均	総数	12.6	8.5	0.7	9.4
	範囲	0 ~ 130	0 ~ 49	0 ~ 21	0 ~ 130
和文論文	総数	933	232	32	1,197
	範囲	0 ~ 130	0 ~ 49	0 ~ 21	0 ~ 130
1地研当りの平均	総数	19.9	19.3	2.0	16.0
	範囲	0 ~ 185	0 ~ 93	0 ~ 16	0 ~ 185
所内報	総数	1,504	402	85	1,991
	範囲	3 ~ 185	0 ~ 93	0 ~ 16	0 ~ 185
1地研当りの平均	総数	32.0	33.5	5.3	26.6
	範囲	5 ~ 337	6 ~ 163	0 ~ 65	0 ~ 337
3カ年の発表	総数	3,260	682	123	4,065
	範囲	5 ~ 337	6 ~ 163	0 ~ 65	0 ~ 337
	1地研当りの平均	69.4 (23.1)	56.8 (18.9)	7.7 (2.6)	54.2 (18.1)
	1人当りの平均	2.23 (0.74)	1.75 (0.58)	0.67 (0.22)	2.00 (0.67)
うち国際学会	総数	119	38	7	164
	範囲	0 ~ 27	0 ~ 11	0 ~ 7	0 ~ 27
1地研当りの平均	総数	2.5	3.2	0.4	2.2
	範囲	0 ~ 27	0 ~ 11	0 ~ 7	0 ~ 27

表 6-2 研究評価会議・委員会等の設置状況地

研数

評価状況	地研区分	都道府県 N=47	指定都市 N=12	中核市等 N=16	全地研 N=75
会議または委員会の設置有り		42	5	0	47
外部有識者の参加		30	2	0	32
本庁の参加		22	3	0	25
評価結果の本庁への報告		31	2	0	33
評価結果の外部公開		25	1	0	26
会議または委員会の頻度 (回数)	範囲	1 ~ 6	1 ~ 2	0	0 ~ 6
	平均*	1.8	1.2	0	1.7
設置予定有		2	1	1	4
設置予定無		3	7	15	25

\*開催地研のみの平均値

表 6-3 倫理審査委員会の設置状況地

研数

設置・開催状況	地研区分	都道府県 N=47	指定都市 N=12	中核市等 N=16	全地研 N=75
委員会の設置有		9	1	0	10
委員会の設置予定有		3	1	0	4
委員会の設置予定無		35	10	16	61
委員会の年開催頻度 (回数)	範囲	1～2	1	0	1～2
	平均	1.4	1.0	0	1.3

## ■ ⑤研究実績

13～15年度の3年間における1地研あたりの平均総研究テーマ数は48.2で、これを所属自治体別にみると、都道府県、指定都市、中核市等の順に60.3、51.7、9.9（1年当たりではそれぞれ20.1、17.2、3.3）となる（表6-4）。さらに衛生系常勤職員一人当たりで見ると、それぞれ1.94、1.59、0.86（1

年当たりでは0.65、0.53、0.29）となる。これらの所属自治体別による差は上述した論文発表及び口頭発表の結果と同様に、主要4業務における調査研究業務の割合の差を反映していると考えられる。総研究テーマのうち約1/3は共同研究で、提携先として国立試験研究機関、大学、他地研、保健所の順に多い。

表 6-4 13,14,15年度に実施した研究テーマ数 ( ) 内は1年当たりの平均

研究テーマ数	地研区分	都道府県 N=47	指定都市 N=12	中核市等 N=16	全地研 N=75
3カ年の総研究テーマ数	総数	2,832	620	159	3,611
	範囲	0～559	16～106	0～77	0～559
	1地研当たりの平均	60.3 (20.1)	51.7 (17.2)	9.9 (3.3)	48.2 (16.1)
	1人当たりの平均	1.94 (0.65)	1.59 (0.53)	0.86 (0.29)	1.78 (0.59)
うち他機関との共同研究	総数	886	251	69	1,206
	範囲	0～128	0～50	0～56	0～128
うち保健所との共同研究	総数	124	32	27	183
	範囲	0～27	0～12	0～18	0～27
大学との共同研究	総数	226	112	12	350
	範囲	0～50	0～38	0～9	0～50
地方衛生研究所との共同研究	総数	177	55	20	252
	範囲	0～25	0～20	0～8	0～25
国立試験研究所との共同研究	総数	365	72	10	447
	範囲	0～48	0～25	0～6	0～48
民間との共同研究	総数	100	3	1	104
	範囲	0～17	0～3	0～1	0～17
その他との共同研究	総数	144	22	14	180
	範囲	0～38	0～7	0～14	0～38
1地研当たりの平均	総数	3.1	1.8	0.9	2.4
	範囲				

7-1. 試験検査（微生物分野；sheet1）<sup>注)</sup>

1) 分類別の試験検査実施状況

■ ①一類～五類感染症の病原体検査

イ) 一類感染症（7項目：表 7-1-1）

SARS、ペストについては、それぞれ64、25の地研で「検査中」または「検査可能」であった。痘そうも8地研で「検査可能」となっている。また、マールブルグ病、ラッサ熱の2項目は、都道府県の1地研のみが「検査可能」であった。

全地研で「検査できない」と答えた項目は、一類感染症のエボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱の2項目のみであった。

「検査できない」理由は、「検査に必要な機器・設備を保有していない」が最も多く、次で「他機関が検査を行うことになっている」、「検査技術を持っている者がいない」、「標準株を保有していない」の順であった。

表 7-1-1 一類感染症の検査実施状況

地研数 (%)

検査実施状況 感染症名	都道府県 (N=47)			指定都市 (N=12)			中核市等 (N=16)			全地研 (N=75)		
	検査中	検査可能	検査できない	検査中	検査可能	検査できない	検査中	検査可能	検査できない	検査中	検査可能	検査できない
エボラ出血熱	0	0	47 (100)	0	0	12 (100)	0	0	16 (100)	0	0	75 (100)
クリミア・コンゴ出血熱	0	0	47 (100)	0	0	12 (100)	0	0	16 (100)	0	0	75 (100)
重症急性呼吸器症候群 (SARS)	16	28	3 ( 6)	3	9	0 ( 0)	1	7	8 ( 50)	20	44	11 ( 15)
痘そう	0	7	40 ( 85)	0	1	11 ( 92)	0	0	16 (100)	0	8	67 ( 89)
ペスト	1	15	31 ( 66)	1	7	4 ( 33)	0	1	15 ( 94)	2	23	50 ( 67)
マールブルグ病	0	1	46 ( 98)	0	0	12 (100)	0	0	16 (100)	0	1	74 ( 99)
ラッサ熱	0	1	46 ( 98)	0	0	12 (100)	0	0	16 (100)	0	1	74 ( 99)

ロ) 二類感染症（6項目：表 7-1-2）

コレラ、細菌性赤痢、腸チフス、パラチフスの4項目は、全地研が「検査中」または「検査可能」であった。

急性灰白随炎は、都道府県で1地研、中核市等で10地研が「検査できない」と回答したが、指定都市では12地研全て検査対応できる。

ジフテリアは、都道府県19地研（40%）、指定都市4地研（33%）、中核市等11地研（69%）、全地研では34地研（45%）が「検査できない」と回答した。

急性灰白随炎とジフテリアの検査が「できない理由」としては、「検査技術を持っている者がいない」が最も多く、次いで「検査の必要がない」、「標準株を保有していない」などであった。

ハ) 三類感染症（1項目）

腸管出血性大腸菌感染症は、指定都市と中核市等の全てが「検査中」と答え、都道府県では「検査中」が44地研「検査可能」が3地研であり、全ての地研で対応可能である。

注) 検査実施（検査中）については、スクリーニング検査も含む。また、検査可能な範囲については、PCRプライマーの入手など僅かな準備期間で検査できる場合も含む。  
なお、調査結果の記述の中で「○%検査対応」あるいは「○項目検査対応できる」と表現しているところは、「検査中」と「検査可能」の2回答を合わせた数値を示す。

表 7-1-2 二類及び三類感染症の検査実施状況

地研数 (%)

検査実施状況 感染症名	都道府県 (N=47)			指定都市 (N=12)			中核市等 (N=16)			全地研 (N=75)		
	検査中	検査可能	検査できない	検査中	検査可能	検査できない	検査中	検査可能	検査できない	検査中	検査可能	検査できない
コレラ	40	7	0 (0)	12	0	0 (0)	15	1	0 (0)	67	8	0 (0)
細菌性赤痢	43	4	0 (0)	12	0	0 (0)	16	0	0 (0)	71	4	0 (0)
腸チフス	39	8	0 (0)	12	0	0 (0)	16	0	0 (0)	67	8	0 (0)
パラチフス	39	8	0 (0)	12	0	0 (0)	16	0	0 (0)	67	8	0 (0)
急性灰白随炎	30	16	1 (2)	8	4	0 (0)	5	1	10 (63)	43	21	11 (15)
ジフテリア	8	20	19 (40)	2	6	4 (33)	1	4	11 (69)	11	30	34 (45)
腸管出血性大腸菌感染症	44	3	0 (0)	12	0	0 (0)	16	0	0 (0)	67	8	0 (0)

## 二) 四類感染症 (30 項目: 表 7-1-3)

レジオネラ症、ウエストナイル熱の 2 項目は、都道府県と指定都市の全ての地研が「検査中」「検査可能」と答えている。

炭疽では、指定都市の全地研が「検査中」「検査可能」と答え、都道府県では、1 地研のみが「検査できない」と回答している。

30 項目中で「できない理由」が多かったのは、「検査技術を持っている者がいない」が全地研平均で 54%、「標準株を保有していない」が 28%、次に「検査の必要がない」、「検査に必要な機器・設備を保有していない」の順であった。

## ホ) 五類感染症 (42 項目: 表 7-1-4)

感染性胃腸炎、インフルエンザなど都道府県では 42 項目中 7 項目、指定都市では 10 項目が両全地研で「検査中」か「検査可能」であった。「検査できない」感染症は、クロイツフェルト・ヤコブ病、尖圭コンジローマ、伝染性紅斑、突発性発しんなどが多かった。

42 項目について「検査できない」理由は、「検査技術を持っている者がいない」が最も多く、次いで

「検査の必要がない」、「標準株を保有していない」及び「検査に必要な機器・設備を保有していない」の 3 つが同程度であった。

## ■②結核菌検査 (3 項目: 表 7-1-5)

塗抹検査は、「検査中」または「検査可能」である地研が、都道府県で 64%、指定都市で 58%、中核市等で 75% であった。

一方、薬剤感受性試験は都道府県では 8 地研が「検査中」、15 地研が「検査可能」、指定都市では 1 地研が「検査中」、4 地研が「検査可能」であった。RFLP 分析は、都道府県では 13 地研が「検査中」、8 地研が「検査可能」、指定都市では 5 地研が「検査中」、1 地研が「検査可能」であった。中核市等では、薬剤感受性試験を「検査中」が 1 地研、「検査可能」が 5 地研、RFLP 分析は「検査中」の 1 地研を除いて全て「検査できない」であった。

「できない理由」としては、「検査に必要な機器・設備を保有していない」と「検査技術を持っている者がいない」が同程度で多く、次いで「他機関が検査を行うことになっている」、「検査の必要 (需要) がない」の順であった。

表 7-1-3 四類感染症の検査実施状況

地研数 (%)

検査実施状況 感染症名	都道府県 (N=47)			指定都市 (N=12)			中核市等 (N=16)			全地研 (N=75)		
	検査中	検査可能	検査できない	検査中	検査可能	検査できない	検査中	検査可能	検査できない	検査中	検査可能	検査できない
E型肝炎	8	21	18 ( 38)	1	3	8 ( 67)	1	2	13 ( 81)	10	26	39 ( 52)
ウエストナイル熱	16	31	0 ( 0)	4	8	0 ( 0)	3	7	6 ( 38)	23	46	6 ( 8)
A型肝炎	9	31	7 ( 15)	6	5	1 ( 8)	2	7	7 ( 44)	17	43	15 ( 20)
エキノコックス症	1	5	41 ( 87)	0	1	11 ( 92)	0	0	16 (100)	1	6	68 ( 91)
黄熱	0	4	43 ( 91)	0	0	12 (100)	0	0	16 (100)	0	4	71 ( 95)
オウム病	9	25	13 ( 28)	0	7	5 ( 42)	1	2	13 ( 81)	10	34	31 ( 41)
回帰熱	0	4	43 ( 91)	0	1	11 ( 92)	0	0	16 (100)	0	5	70 ( 93)
Q熱	13	16	18 ( 38)	0	4	8 ( 67)	1	0	15 ( 94)	14	20	41 ( 55)
狂犬病	3	9	35 ( 74)	0	3	9 ( 75)	0	0	16 (100)	3	12	60 ( 80)
高病原性鳥インフルエンザ	8	38	1 ( 2)	2	9	1 ( 8)	2	7	7 ( 44)	12	54	9 ( 12)
コクシジオイデス症	0	2	45 ( 96)	0	1	11 ( 92)	0	0	16 (100)	0	3	72 ( 96)
サル痘	0	4	43 ( 91)	0	2	10 ( 83)	0	0	16 (100)	0	6	69 ( 92)
腎症候性出血熱	1	6	40 ( 85)	0	1	11 ( 92)	0	0	16 (100)	1	7	67 ( 89)
炭疽	23	23	1 ( 2)	9	3	0 ( 0)	4	8	4 ( 25)	36	34	5 ( 7)
つつが虫病	28	13	6 ( 13)	3	1	8 ( 67)	1	3	12 ( 75)	32	17	26 ( 35)
デング熱	5	18	24 ( 51)	3	2	7 ( 58)	1	2	13 ( 81)	9	22	44 ( 59)
ニパウイルス感染症	0	4	43 ( 91)	0	0	12 (100)	0	0	16 (100)	0	4	71 ( 95)
日本紅斑熱	19	12	16 ( 34)	0	2	10 ( 83)	0	0	16 (100)	19	14	42 ( 56)
日本脳炎	22	23	2 ( 4)	3	6	3 ( 25)	1	1	14 ( 88)	26	30	19 ( 25)
ハンタウイルス肺症候群	0	6	41 ( 87)	0	2	10 ( 83)	0	1	15 ( 94)	0	9	66 ( 88)
Bウイルス病	0	3	44 ( 94)	0	0	12 (100)	0	0	16 (100)	0	3	72 ( 96)
ブルセラ症	2	9	36 ( 77)	0	4	8 ( 67)	0	1	15 ( 94)	2	14	59 ( 79)
発しんチフス	2	11	34 ( 72)	0	1	11 ( 92)	0	0	16 (100)	2	12	61 ( 81)
ボツリヌス症	20	23	4 ( 9)	5	4	3 ( 25)	3	4	9 ( 56)	28	31	16 ( 21)
マラリア	5	12	30 ( 64)	1	5	6 ( 50)	0	6	10 ( 63)	6	23	46 ( 61)
野兔病	1	7	39 ( 83)	0	4	8 ( 67)	0	1	15 ( 94)	1	12	62 ( 83)
ライム病	3	10	34 ( 72)	0	2	10 ( 83)	0	0	16 (100)	3	12	60 ( 80)
リッサウイルス感染症	0	4	43 ( 91)	0	1	11 ( 92)	0	0	16 (100)	0	5	70 ( 93)
レジオネラ症	39	8	0 ( 0)	11	1	0 ( 0)	8	6	2 ( 13)	58	15	2 ( 3)
レプトスピラ症	3	10	34 ( 72)	0	4	8 ( 67)	0	0	16 (100)	3	14	58 ( 77)

表 7-1-4 五類感染症の検査実施状況

地研数 (%)

検査実施状況 感染症名	都道府県 (N=47)			指定都市 (N=12)			中核市等 (N=16)			全地研 (N=75)		
	検査中	検査可能	検査できない	検査中	検査可能	検査できない	検査中	検査可能	検査できない	検査中	検査可能	検査できない
後天性免疫不全症候群	36	8	3 ( 6)	10	2	0 ( 0)	9	3	4 ( 25)	55	13	7 ( 9)
梅毒	12	21	14 ( 30)	6	2	4 ( 33)	9	4	3 ( 19)	27	27	21 ( 28)
アメーバ赤痢	12	25	10 ( 21)	4	4	4 ( 33)	2	11	3 ( 19)	18	40	17 ( 23)
ウイルス性肝炎 (E型肝炎及びA型肝炎を除く)	12	25	10 ( 21)	4	6	2 ( 17)	4	2	10 ( 63)	20	33	22 ( 29)
急性脳炎 ( 웨스트ニル脳炎及び日本脳炎を除く)	21	23	3 ( 6)	5	4	3 ( 25)	3	2	11 ( 69)	29	29	17 ( 23)
クリプトスポリジウム症	21	22	4 ( 9)	3	6	3 ( 25)	1	8	7 ( 44)	25	36	14 ( 19)
クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	47 (100)	0	0	12 (100)	1	1	14 ( 88)	1	1	73 ( 97)
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	21	17	9 ( 19)	3	6	3 ( 25)	2	8	6 ( 38)	26	31	18 ( 24)
ジアルジア症	16	23	8 ( 17)	3	4	5 ( 42)	2	7	7 ( 44)	21	34	20 ( 27)
髄膜炎菌性髄膜炎	16	19	12 ( 26)	4	4	4 ( 33)	1	5	10 ( 63)	21	28	26 ( 35)
先天性風しん症候群	6	32	9 ( 19)	0	5	7 ( 58)	0	2	14 ( 88)	6	39	30 ( 40)
破傷風	3	31	13 ( 28)	2	3	7 ( 58)	0	6	10 ( 63)	5	40	30 ( 40)
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	10	29	8 ( 17)	2	7	3 ( 25)	0	9	7 ( 44)	12	45	18 ( 24)
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	12	27	8 ( 17)	3	6	3 ( 25)	1	7	8 ( 50)	16	40	19 ( 25)
RSウイルス感染症	24	18	5 ( 11)	6	6	0 ( 0)	4	1	11 ( 69)	34	25	16 ( 21)
咽頭結膜熱	44	3	0 ( 0)	12	0	0 ( 0)	6	1	9 ( 56)	62	4	9 ( 12)
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	30	13	4 ( 9)	5	3	4 ( 33)	4	6	6 ( 38)	39	22	14 ( 19)
感染性胃腸炎	46	1	0 ( 0)	10	2	0 ( 0)	11	3	2 ( 13)	67	6	2 ( 3)
水痘	17	15	15 ( 32)	5	5	2 ( 17)	1	2	13 ( 81)	23	22	30 ( 40)
手足口病	44	3	0 ( 0)	12	0	0 ( 0)	6	0	10 ( 63)	62	3	10 ( 13)
伝染性紅斑	12	13	22 ( 47)	1	2	9 ( 75)	1	1	14 ( 88)	14	16	45 ( 60)
突発性発しん	15	13	19 ( 40)	3	2	7 ( 58)	0	2	14 ( 88)	18	17	40 ( 53)
百日咳	17	17	13 ( 28)	3	6	3 ( 25)	3	4	9 ( 56)	23	27	25 ( 33)
風しん	21	21	5 ( 11)	5	7	0 ( 0)	1	5	10 ( 63)	27	33	15 ( 20)
ヘルパンギーナ	42	5	0 ( 0)	11	1	0 ( 0)	4	1	11 ( 69)	57	7	11 ( 15)
麻しん (成人麻しんを除く)	32	14	1 ( 2)	8	3	1 ( 8)	3	2	11 ( 69)	43	19	13 ( 17)
流行性耳下腺炎	42	4	1 ( 2)	10	1	1 ( 8)	6	0	10 ( 63)	58	5	12 ( 16)
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	7	25	15 ( 32)	0	8	4 ( 33)	0	2	14 ( 88)	7	35	33 ( 44)
細菌性髄膜炎	17	16	14 ( 30)	4	4	4 ( 33)	3	4	9 ( 56)	24	24	27 ( 36)
成人麻しん	23	23	1 ( 2)	6	5	1 ( 8)	3	2	11 ( 69)	32	30	13 ( 17)
マイコプラズマ肺炎	7	26	14 ( 30)	2	3	7 ( 58)	0	2	14 ( 88)	9	31	35 ( 47)
無菌性髄膜炎	44	3	0 ( 0)	12	0	0 ( 0)	6	0	10 ( 63)	62	3	10 ( 13)
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	10	21	16 ( 34)	1	8	3 ( 25)	0	7	9 ( 56)	11	36	28 ( 37)
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	9	30	8 ( 17)	2	8	2 ( 17)	1	9	6 ( 38)	12	47	16 ( 21)
薬剤耐性緑膿菌感染症	8	27	12 ( 26)	1	8	3 ( 25)	1	7	8 ( 50)	10	42	23 ( 31)
急性出血性結膜炎	31	15	1 ( 2)	9	1	2 ( 17)	4	0	12 ( 75)	44	16	15 ( 20)
流行性角結膜炎	39	8	0 ( 0)	11	1	0 ( 0)	6	1	9 ( 56)	56	10	9 ( 12)
インフルエンザ (高病原性鳥インフルエンザ除く)	44	3	0 ( 0)	11	1	0 ( 0)	7	1	8 ( 50)	62	5	8 ( 11)
性器クラミジア感染症	8	19	20 ( 43)	4	6	2 ( 17)	5	3	8 ( 50)	17	28	30 ( 40)
性器ヘルペスウイルス感染症	17	19	11 ( 23)	4	6	2 ( 17)	1	2	13 ( 81)	22	27	26 ( 35)
尖圭コンジローマ	1	7	39 ( 83)	1	2	9 ( 75)	0	0	16 (100)	2	9	64 ( 85)
淋菌感染症	5	19	23 ( 49)	1	5	6 ( 50)	1	6	9 ( 56)	7	30	38 ( 51)

表 7-1-5 結核菌検査の実施状況

地研数 (%)

検査実施状況 感染症名	都道府県 (N=47)			指定都市 (N=12)			中核市等 (N=16)			全地研 (N=75)		
	検査中	検査可能	検査できない	検査中	検査可能	検査できない	検査中	検査可能	検査できない	検査中	検査可能	検査できない
塗抹検査	11	19	17 (36)	5	2	5 (42)	10	2	4 (25)	26	23	26 (35)
薬剤感受性試験	8	15	24 (51)	1	4	7 (58)	1	5	10 (63)	10	24	41 (55)
RFLP 分析	13	8	26 (55)	5	1	6 (50)	1	0	15 (94)	19	9	47 (63)

### ■ ③細菌性食中毒の検査 (71 項目：表 7-1-6)

細菌性食中毒の検査は実施率が最も高く、全地研において 71 項目中平均 98.8% が「検査中」か「検査可能」であった。サルモネラ属菌、ぶどう球菌、腸炎ビブリオ他 14 菌種については、便、食品、水ともに全地研で「検査中」または「検査可能」と回答している。「検査できない」の回答が最も多かったのはボツリヌス菌で、便、食品ともに全地研で約 20% が該当した。

「検査できない」理由としては、「検査技術を持っている者がいない」、「検査に必要な機器・設備を保有していない」、「標準株を保有していない」、「人的余裕がない」の順であった。

### ■ ④ウイルス性食中毒の検査 (15 項目：表 7-1-7)

ノロウイルス (便) は「検査中」が最も多く、検査可能も含めると 97% の地研が対応していた。

地研全体で「検査できない」が最も多かったのは E 型肝炎ウイルス (約 50%) で、次いで水を対象とするサポウイルス、アストロウイルス、A 型肝炎ウイルスであった。一般的に、E 型肝炎ウイルスを除いて、便、食品、水の順に「検査中」と「検査可能」の率が低下する傾向が見られる。

「できない理由」で多かったのは、「検査技術を持っている者がいない」が最も多く、次いで「検査に必要な機器・設備を保有していない」「検査の必要がない」「標準株を保有していない」「人的余裕がない」

の順であった。

### ■ ⑤クリプトスポリジウム検査 (3 項目：表 7-1-8)

便と水については全般的に実施率が高く、特に都道府県では「検査中」と「検査可能」を合わせると各々約 90% であった。これに対し、食品中のクリプトスポリジウムの検査対応ができると回答した地研は、都道府県では 62%、指定都市では 33%、中核市等では 44% であった。

「検査できない理由」は、多い順から「検査に必要な機器・設備を保有していない」、「検査技術を持っている者がいない」、「検査の必要がない」、「人的余裕がない」、「他機関が検査を行うことになっている」であった。

### ■ ⑥院内感染に関する病原体検査

#### イ) 細菌検査 (16 項目：表 7-1-9)

カンジダ、マルトフィリア菌、セパシア菌、ディフィシレ菌の 4 項目が「検査できない」が多く、次いで、抗酸菌、アシネトバクターの順であった。その他の菌については 8 割以上の地研が対応可能であった。

「できない理由」で多かったのは、「検査の必要 (需要) がない」、次いで「他機関が検査を行うことになっている」、「検査技術を持っている者がいない」、「標準株を保有していない」、「人的余裕がない」の順であった。

表 7-1-6 (1) 細菌性食中毒の検査実施状況

地研数 (%)

検査実施状況 感染症名		都道府県 (N=47)			指定都市 (N=12)			中核市等 (N=16)			全地研 (N=75)		
		検査中	検査可能	検査できない	検査中	検査可能	検査できない	検査中	検査可能	検査できない	検査中	検査可能	検査できない
サルモネラ属菌	便	11	19	17 (36)	5	2	5 (42)	10	2	4 (25)	26	23	26 (35)
	食品	8	15	24 (51)	1	4	7 (58)	1	5	10 (63)	10	24	41 (55)
	水	13	8	26 (55)	5	1	6 (50)	1	0	15 (94)	19	9	47 (63)
ぶどう球菌	便	41	6	0 (0)	12	0	0 (0)	16	0	0 (0)	69	6	0 (0)
	食品	40	7	0 (0)	12	0	0 (0)	16	0	0 (0)	68	7	0 (0)
	水	34	13	0 (0)	10	2	0 (0)	15	1	0 (0)	59	16	0 (0)
ボツリヌス菌	便	23	20	4 (9)	7	2	3 (25)	5	3	8 (50)	35	25	15 (20)
	食品	22	22	3 (6)	7	2	3 (25)	5	3	8 (50)	34	27	14 (19)
腸炎ビブリオ	便	40	7	0 (0)	12	0	0 (0)	16	0	0 (0)	68	7	0 (0)
	食品	39	8	0 (0)	12	0	0 (0)	16	0	0 (0)	67	8	0 (0)
	水	35	12	0 (0)	11	1	0 (0)	16	0	0 (0)	62	13	0 (0)
腸管出血性大腸菌	便	41	6	0 (0)	12	0	0 (0)	16	0	0 (0)	69	6	0 (0)
	食品	41	6	0 (0)	12	0	0 (0)	16	0	0 (0)	69	6	0 (0)
	水	38	9	0 (0)	11	1	0 (0)	16	0	0 (0)	65	10	0 (0)
毒素原性大腸菌	便	40	7	0 (0)	12	0	0 (0)	16	0	0 (0)	68	7	0 (0)
	食品	39	8	0 (0)	11	1	0 (0)	16	0	0 (0)	66	9	0 (0)
	水	36	11	0 (0)	11	1	0 (0)	16	0	0 (0)	63	12	0 (0)
腸管侵入性大腸菌	便	38	8	1 (2)	10	2	0 (0)	15	0	1 (6)	63	10	2 (3)
	食品	37	9	1 (2)	10	2	0 (0)	15	0	1 (6)	62	11	2 (3)
	水	35	11	1 (2)	9	3	0 (0)	15	0	1 (6)	59	14	2 (3)
腸管病原性大腸菌	便	36	10	1 (2)	12	0	0 (0)	15	0	1 (6)	63	10	2 (3)
	食品	35	11	1 (2)	11	1	0 (0)	15	0	1 (6)	61	12	2 (3)
	水	33	13	1 (2)	10	2	0 (0)	15	0	1 (6)	58	15	2 (3)
腸管集合性大腸菌	便	32	13	2 (4)	9	2	1 (8)	7	6	3 (19)	48	21	6 (8)
	食品	30	15	2 (4)	8	3	1 (8)	7	6	3 (19)	45	24	6 (8)
	水	28	17	2 (4)	8	3	1 (8)	7	6	3 (19)	43	26	6 (8)
ウエルシュ菌	便	42	5	0 (0)	12	0	0 (0)	16	0	0 (0)	70	5	0 (0)
	食品	40	7	0 (0)	12	0	0 (0)	16	0	0 (0)	68	7	0 (0)
	水	34	13	0 (0)	10	2	0 (0)	16	0	0 (0)	60	15	0 (0)
セレウス菌	便	39	8	0 (0)	12	0	0 (0)	16	0	0 (0)	67	8	0 (0)
	食品	38	9	0 (0)	12	0	0 (0)	16	0	0 (0)	66	9	0 (0)
	水	33	14	0 (0)	10	2	0 (0)	16	0	0 (0)	59	16	0 (0)
エルシニア・エンテロコリチカ	便	39	8	0 (0)	12	0	0 (0)	15	1	0 (0)	66	9	0 (0)
	食品	36	11	0 (0)	12	0	0 (0)	15	1	0 (0)	63	12	0 (0)
	水	32	15	0 (0)	11	1	0 (0)	15	1	0 (0)	58	17	0 (0)



表 7-1-6 (2) 細菌性食中毒の検査実施状況

地研数 (%)

検査実施状況 感染症名		都道府県 (N=47)			指定都市 (N=12)			中核市等 (N=16)			全地研 (N=75)		
		検査中	検査可能	検査できない	検査中	検査可能	検査できない	検査中	検査可能	検査できない	検査中	検査可能	検査できない
カンピロバクター・ジェジュニ	便	42	5	0 (0)	12	0	0 (0)	16	0	0 (0)	70	5	0 (0)
	食品	40	7	0 (0)	12	0	0 (0)	16	0	0 (0)	68	7	0 (0)
	水	35	12	0 (0)	11	1	0 (0)	16	0	0 (0)	62	13	0 (0)
カンピロバクター・コリ	便	41	6	0 (0)	12	0	0 (0)	16	0	0 (0)	69	6	0 (0)
	食品	39	8	0 (0)	12	0	0 (0)	16	0	0 (0)	67	8	0 (0)
	水	34	13	0 (0)	11	1	0 (0)	16	0	0 (0)	61	14	0 (0)
ナグビブリオ	便	35	12	0 (0)	12	0	0 (0)	15	1	0 (0)	62	13	0 (0)
	食品	34	13	0 (0)	12	0	0 (0)	15	1	0 (0)	61	14	0 (0)
	水	32	15	0 (0)	11	1	0 (0)	15	1	0 (0)	58	17	0 (0)
コレラ菌	便	37	10	0 (0)	12	0	0 (0)	16	0	0 (0)	65	10	0 (0)
	食品	35	12	0 (0)	12	0	0 (0)	16	0	0 (0)	63	12	0 (0)
	水	34	13	0 (0)	11	1	0 (0)	16	0	0 (0)	61	14	0 (0)
赤痢菌	便	37	10	0 (0)	12	0	0 (0)	16	0	0 (0)	65	10	0 (0)
	食品	35	12	0 (0)	11	1	0 (0)	16	0	0 (0)	62	13	0 (0)
	水	33	14	0 (0)	10	2	0 (0)	16	0	0 (0)	59	16	0 (0)
チフス菌	便	37	10	0 (0)	12	0	0 (0)	16	0	0 (0)	65	10	0 (0)
	食品	34	13	0 (0)	11	1	0 (0)	15	1	0 (0)	60	15	0 (0)
	水	32	15	0 (0)	10	2	0 (0)	15	1	0 (0)	57	18	0 (0)
パラチフスA菌	便	37	10	0 (0)	12	0	0 (0)	16	0	0 (0)	65	10	0 (0)
	食品	34	13	0 (0)	11	1	0 (0)	15	1	0 (0)	60	15	0 (0)
	水	32	15	0 (0)	10	2	0 (0)	15	1	0 (0)	57	18	0 (0)
ビブリオ・ミミクス	便	35	11	1 (2)	12	0	0 (0)	15	1	0 (0)	62	12	1 (1)
	食品	32	14	1 (2)	12	0	0 (0)	15	1	0 (0)	59	15	1 (1)
	水	27	19	1 (2)	11	1	0 (0)	15	1	0 (0)	53	21	1 (1)
ビブリオ・フルビアリス	便	36	11	0 (0)	12	0	0 (0)	15	1	0 (0)	63	12	0 (0)
	食品	33	14	0 (0)	12	0	0 (0)	15	1	0 (0)	60	15	0 (0)
	水	28	19	0 (0)	11	1	0 (0)	15	1	0 (0)	54	21	0 (0)
エロモナス	便	37	10	0 (0)	12	0	0 (0)	15	1	0 (0)	64	11	0 (0)
	食品	34	13	0 (0)	12	0	0 (0)	14	2	0 (0)	60	15	0 (0)
	水	29	18	0 (0)	11	1	0 (0)	14	2	0 (0)	54	21	0 (0)
プレシオモナス・シゲロイデス	便	35	11	1 (2)	12	0	0 (0)	14	1	1 (6)	61	12	2 (3)
	食品	32	14	1 (2)	12	0	0 (0)	14	1	1 (6)	58	15	2 (3)
	水	28	18	1 (2)	11	1	0 (0)	14	1	1 (6)	53	20	2 (3)
リステリア・モノサイトゲネス	便	22	24	1 (2)	9	3	0 (0)	9	7	0 (0)	40	34	1 (1)
	食品	24	22	1 (2)	12	0	0 (0)	11	5	0 (0)	47	27	1 (1)
	水	18	28	1 (2)	7	5	0 (0)	10	6	0 (0)	35	39	1 (1)

表 7-1-7 ウイルス性食中毒の検査実施状況

地研数 (%)

検査実施状況		都道府県 (N=47)			指定都市 (N=12)			中核市等 (N=16)			全地研 (N=75)		
		検査中	検査可能	検査できない	検査中	検査可能	検査できない	検査中	検査可能	検査できない	検査中	検査可能	検査できない
ノロウイルス	便	45	2	0 (0)	12	0	0 (0)	14	0	2 (13)	71	2	2 (3)
	食品	38	8	1 (2)	11	1	0 (0)	13	1	2 (13)	62	10	3 (4)
	水	23	16	8 (17)	7	3	2 (17)	9	2	5 (31)	39	21	15 (20)
サポウイルス	便	22	20	5 (11)	4	6	2 (17)	3	6	7 (44)	29	32	14 (19)
	食品	10	30	7 (15)	2	8	2 (17)	1	7	8 (50)	13	45	17 (23)
	水	7	27	13 (28)	2	7	3 (25)	1	6	9 (56)	10	40	25 (33)
アストロウイルス	便	21	23	3 (6)	6	5	1 (8)	2	7	7 (44)	29	35	11 (15)
	食品	8	33	6 (13)	3	8	1 (8)	1	7	8 (50)	12	48	15 (20)
	水	7	28	12 (26)	3	7	2 (17)	1	6	9 (56)	11	41	23 (31)
A型肝炎ウイルス	便	11	32	4 (9)	5	6	1 (8)	2	8	6 (38)	18	46	11 (15)
	食品	9	31	7 (15)	2	8	2 (17)	3	8	5 (31)	14	47	14 (19)
	水	7	28	12 (26)	2	7	3 (25)	2	7	7 (44)	11	42	22 (29)
E型肝炎ウイルス	便	6	24	17 (36)	1	4	7 (58)	0	6	10 (63)	7	34	34 (45)
	食品	5	23	19 (40)	1	4	7 (58)	0	6	10 (63)	6	33	36 (48)
	水	3	21	23 (49)	1	4	7 (58)	1	5	10 (63)	5	30	40 (53)

表 7-1-8 クリプトスポリジウムの検査実施状況

地研数 (%)

検査実施状況		都道府県 (N=47)			指定都市 (N=12)			中核市等 (N=16)			全地研 (N=75)		
		検査中	検査可能	検査できない	検査中	検査可能	検査できない	検査中	検査可能	検査できない	検査中	検査可能	検査できない
クリプトスポリジウム	便	15	26	6 (13)	2	5	5 (42)	2	9	5 (31)	19	40	16 (21)
	食品	11	18	18 (38)	1	3	8 (67)	0	7	9 (56)	12	28	35 (47)
	水	22	20	5 (11)	4	3	5 (42)	1	6	9 (56)	27	29	19 (25)

表 7-1-9 院内感染関連病原体（細菌）の検査実施状況

地研数 (%)

検査実施状況 感染症名		都道府県 (N=47)			指定都市 (N=12)			中核市等 (N=16)			全地研 (N=75)		
		検査中	検査可能	検査できない	検査中	検査可能	検査できない	検査中	検査可能	検査できない	検査中	検査可能	検査できない
グラム陰性桿菌	緑膿菌	6	30	11 (23)	2	7	3 (25)	1	11	4 (25)	9	48	18 (24)
	セパシア菌	3	25	19 (40)	1	7	4 (33)	0	6	10 (63)	4	38	33 (44)
	マルトフィリア菌	2	24	21 (45)	1	6	5 (42)	0	6	10 (63)	3	36	36 (48)
	クレブシエラ	8	28	11 (23)	1	7	4 (33)	1	11	4 (25)	10	46	19 (25)
	エンテロバクター	8	28	11 (23)	1	8	3 (25)	1	11	4 (25)	10	47	18 (24)
	大腸菌	11	27	9 (19)	4	6	2 (17)	1	13	2 (13)	16	46	13 (17)
	セラチア	9	26	12 (26)	2	6	4 (33)	1	11	4 (25)	12	43	20 (27)
	アシネトバクター	5	27	15 (32)	1	7	4 (33)	1	7	8 (50)	7	41	27 (36)
グラム陽性球菌	黄色ぶどう球菌	12	25	10 (21)	3	7	2 (17)	1	13	2 (13)	16	45	14 (19)
	表皮ぶどう球菌	8	28	11 (23)	2	8	2 (17)	1	12	3 (19)	11	48	16 (21)
	コアグラ-ゼ陰性ぶどう球菌	6	30	11 (23)	2	8	2 (17)	1	12	3 (19)	9	50	16 (21)
	腸球菌	8	27	12 (26)	1	9	2 (17)	1	12	3 (19)	10	48	17 (23)
真菌	カンジタ	3	18	26 (55)	1	4	7 (58)	0	5	11 (69)	4	27	44 (59)
嫌気性菌	ディフィシレ菌	4	23	20 (43)	1	6	5 (42)	0	7	9 (56)	5	36	34 (45)
その他	レジオネラ	20	21	6 (13)	3	7	2 (17)	1	12	3 (19)	24	40	11 (15)
	抗酸菌	9	20	18 (38)	1	7	4 (33)	2	7	7 (44)	12	34	29 (39)

## ロ) ウイルス検査 (5項目: 表 7-1-10)

5種のウイルスの中で「検査中」または「検査可能」と回答している地研が最も多いのはロタウイルスで、次いでHIV、RSウイルスであった。全般的に細菌性院内感染の検査実施率に比べ、ウイルスでは中核市等での「検査できない」率が高くなっている。

「できない理由」で多かったのは、「検査の必要(需要)がない」で、次いで「他機関が検査を行うことになっている」、「検査技術を持っている者がいない」、「人的余裕がない」「検査に必要な機器・設備を保有していない」の順となっており、初めの3つの理由は細菌検査の場合と同じ順位であった。

## ハ) その他の検査 (1項目)

疥癬を「検査できない」と回答した地研は、都道府県では74%、指定都市では67%、中核市等では88%、全地研では76%であった。「検査中」と回答した地研は全国で4カ所、「検査可能」は14カ所であった。

「検査できない」理由は、「検査技術を持っている者がいない」が特に多く、次いで「検査の必要がない」、「他機関が検査を行うことになっている」、「人的余裕がない」、「標準株を保有していない」、「検査に必要な機器・設備を保有していない」の順であった。

表 7-1-10 院内感染関連病原体（ウイルス・疥癬）の検査実施状況

地研数 (%)

検査実施状況 感染症名	都道府県 (N=47)			指定都市 (N=12)			中核市等 (N=16)			全地研 (N=75)		
	検査中	検査可能	検査できない	検査中	検査可能	検査できない	検査中	検査可能	検査できない	検査中	検査可能	検査できない
ロタウイルス	17	24	6 (13)	3	7	2 (17)	2	8	6 (38)	22	39	14 (19)
RSウイルス	9	29	9 (19)	3	7	2 (17)	2	5	9 (56)	14	41	20 (27)
B型肝炎ウイルス	4	30	13 (28)	2	7	3 (25)	2	5	9 (56)	8	42	25 (33)
C型肝炎ウイルス	7	25	15 (32)	3	6	3 (25)	1	6	9 (56)	11	37	27 (36)
HIV	13	23	11 (23)	5	4	3 (25)	3	8	5 (31)	21	35	19 (25)
疥癬	3	9	35 (74)	1	3	8 (67)	0	2	14 (88)	4	14	57 (76)

■ ⑦ 衛生害虫の同定検査（10項目：図 7-1-1、表 7-1-11）

衛生害虫の「同定可」の割合は、図 7-1-1 のように所属自治体により差が見られ、10項目を平均すると都道府県地研で40%、指定都市で58%、中核市等で14%となっているが、各地研分類区分内では差が少ない。

「同定不可」の理由は、「検査技術を持っている者がいない」が8割程度で圧倒的に多く、次いで「検査の必要（需要）がない」が2割程度、「人的余裕がない」、「他機関が検査を行うことになっている」と続いた。

2) ▲微生物分野のまとめ▼

（衛生害虫を除く全対象200項目の試験検査状況）

■ ① 全地研で「検査中」または「検査可能」な項目

都道府県では200項目中平均72項目（全項目の36%）が「検査対応」でき、指定都市地研では88項目（44%）、中核市等では62項目（31%）が検査できる状況にある。分類別にみると、図 7-1-2 に示すように、三類感染症は75地研全てで検査ができ、次いで細菌性食中毒では、71項目の80～90%が全ての地研で検査でき、二類感染症では70～80%（4～6項目）が全ての地研で検査できる状況にあることが分かる。

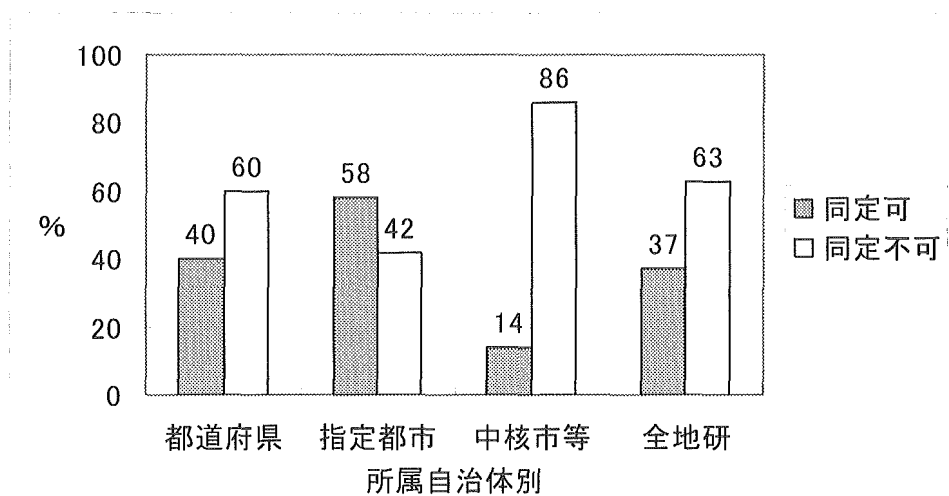


図 7-1-1 衛生害虫 10種の同定検査の所属自治体別比較

表 7-1-11 衛生害虫の同定検査実施状況

地研数 (%)

衛生害虫	都道府県 N=47		指定都市 N=12		中核市等 N=16		全地研 N=75	
	同定可	同定不可	同定可	同定不可	同定可	同定不可	同定可	同定不可
蚊類 (アカイエカ、コガタアカイエカ、ヒトスジシマカなど)	22	25 (53)	7	5 (42)	4	12 (75)	33	42 (56)
ハエ類 (クロバエ類、ニクバエ類、イエバエ類、チョウバエ類など)	19	28 (60)	6	6 (50)	2	14 (88)	27	48 (64)
ノミ類 (ネコノミ、イヌノミ、ヒトノミなど)	17	30 (64)	8	4 (33)	2	14 (88)	27	48 (64)
シラミ類 (コロモジラミ、アタマジラミ、ケジラミなど)	16	31 (66)	8	4 (33)	2	14 (88)	26	49 (65)
トコジラミ類 (トコジラミ、タイワントコジラミなど)	15	32 (68)	7	5 (42)	2	14 (88)	24	51 (68)
ゴキブリ類 (クロゴキブリ、ワモンゴキブリ、チャバネゴキブリ等)	21	26 (55)	7	5 (42)	2	14 (88)	30	45 (60)
ドクガ類・イラガ類 (ドクガ、チャドクガ、ヒロヘリアオイラガなど)	17	30 (64)	7	5 (42)	2	14 (88)	26	49 (65)
ハチ類 (スズメバチ類、アシナガバチ類、ミツバチ類、アリガタバチ類など)	19	28 (60)	7	5 (42)	2	14 (88)	28	47 (63)
ダニ類 (室内塵性ダニ類、イエダニ類、ヒゼンダニ類、マダニ類、ツツガムシ類、タカラダニ類など)	24	23 (49)	6	6 (50)	2	14 (88)	32	43 (57)
クモ類 (セアカゴケグモ、クロゴケグモ、ハイイロゴケグモ、カバキコマチグモなど)	19	28 (60)	7	5 (42)	2	14 (88)	28	47 (63)

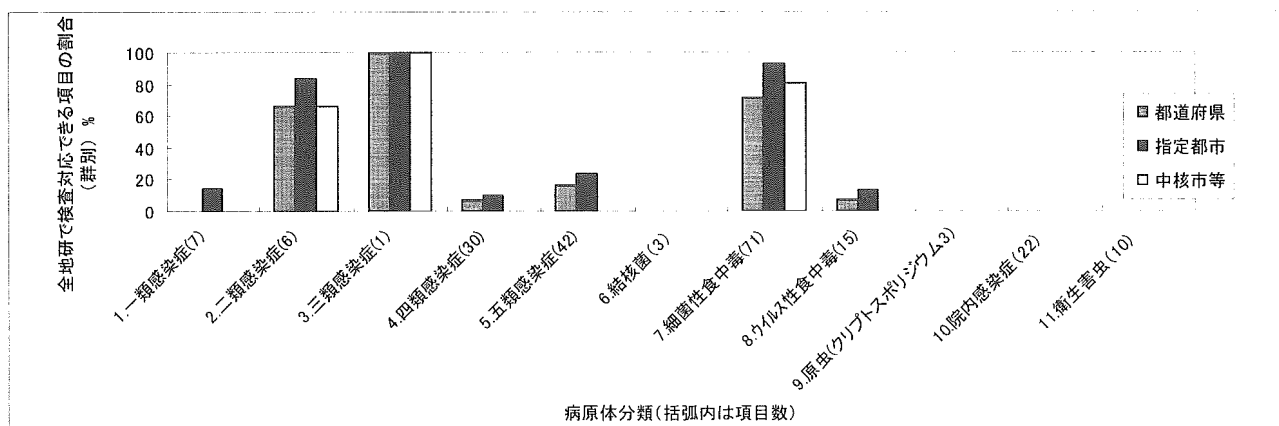


図 7-1-2 全ての地研で「検査中」または「検査可能」な項目

■ ②全地研で検査できないか検査困難な項目

75 地研全てで「検査できない」感染症はエボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱であった。1 地研のみ「検査可能」な感染症はマールブルグ病とラッサ熱、次いでクロイツフェルト・ヤコブ病は 1 地研で「検査可能」で 1 地研では「検査中」であった。コクシジオイデス症と B ウイルス病は 3 地研で「検査可能」、黄熱とニパウイルス感染症は 4 地研で、回帰熱とリッサウイルス感染症は 5 地研で、サル痘は 6 地研で「検査可能」であった。エキノコックス症は 6 地研で「検査可能」で、1 地研は「検査中」

であった。

また、これらの疾患を「検査可能」な地研について所属自治体別にみると、都道府県が指定都市よりやや多かった。

これら 13 疾患については、9 割以上の地研が「検査できない」と回答し、その主たる理由は「検査に必要な機器または設備を保有していない」、「他機関が検査を行うことになっている」、「標準株を保有していない」「検査技術を持っている者がいない」の順であった。

## 7-2. 試験検査（理化学分野；sheet2）

### 1) 食品に関する検査実施状況

#### ■ ①食品添加物（345項目：表7-2-1）

指定添加物345項目の内、「検査中」または「検査可能」な項目が最も多かったのは、所属自治体別にみると、指定都市で平均108.2項目（31%）であり、次いで都道府県58.7項目（17%）、中核市等48.9項目（14%）であった。

都道府県では収去等による検査を保健所で行っているところが多くみられる。また、保健所等では簡単な添加物試験を実施し、複雑で高度な機器を要する検査は地研で実施していることが推測できる。

「検査できない」理由は、全地研で「他機関が検査を行うことになっている」と「検査の必要（需要）がない」の関連する（同義的回答であり一部両回答の和で解釈）2回答が多く、次いで「標準品を保有していない」、「人的余裕がない」であった。

#### ■ ②残留農薬の検査実施状況（242項目：表7-2-2）

法的規制のある残留農薬242項目の検査実施状況は、「検査対応できる」項目数が最も多かったのは

指定都市の139.7項目（58%）であり、次いで、都道府県の131.7項目（54%）、中核市等82.8項目（34%）であった。

「検査できない」理由は、全地研で「人的余裕がない」が最も多く、次いで「標準品を保有していない」、「検査に必要な機器または設備を保有していない」であった。

#### ■ ③汚染物質、変質物質の検査実施状況（27項目：表7-2-3）

全体を通じ9割以上の地研で「検査対応できる」のは、カドミウム、総水銀、鉛、ヒ素、スズなどの無機汚染物質、及び油脂の酸化・過酸化物質であった。一方、オクラトキシン、フザリウムトキシン、チトリニン、ペニシリン酸などの天然汚染物質は8割の地研で「検査できない」となっている。また、PCT、ダイオキシン類、パツリンも7割以上の地研で検査できないと回答した。

「検査できない」理由は、全地研で「検査の必要（需要）がない」と「他機関が検査を行うことになっている」の関連する2回答が多く、次いで、「標準品を保有していない」、「人的余裕がない」であった。

表7-2-1 食品添加物（指定添加物345項目）の検査実施状況 ( )内は%

検査実施状況	地研分類	都道府県 N=47	指定都市 N=12	中核市等 N=16	全地研 N=75
食品添加物のうち検査実施中の項目数		16.7 (5)	46.4 (13)	38.0 (11)	26.0 (8)
食品添加物のうち検査可能な項目数		42.0 (12)	61.8 (18)	10.9 (3)	38.5 (11)
食品添加物のうち検査できない項目数		286.3 (83)	236.8 (69)	296.1 (86)	280.5 (81)

表7-2-2 残留農薬の検査実施状況 ( )内は%

検査実施状況	地研分類	都道府県 N=47	指定都市 N=12	中核市等 N=16	全地研 N=75
法的規制のある残留農薬（242種類）のうち検査実施中の項目数		87.6 (36)	101.4 (42)	63.2 (26)	84.6 (35)
法的規制のある残留農薬（242種類）のうち検査可能な項目数		44.1 (18)	38.3 (16)	19.6 (8)	38.0 (16)
法的規制のある残留農薬（242種類）のうち検査できない項目数		110.2 (46)	102.3 (42)	159.3 (66)	119.4 (49)

注：理化学分野においては、標準を入手すれば検査できる場合は「検査できない」を選択することとなっている。従って、「検査できない」の回答の中には、検査技術と設備を有する項目も含まれていると考えられる。（表7C参照）

なお、調査結果の記述の中で「○%検査対応」あるいは「○項目検査対応できる」と表現しているところは、「検査中」と「検査可能」の2回答を合わせた数値を示す。

表 7-2-3 食品中の汚染物質、変質物質の検査実施状況

地研数 (%)

検査実施状況		都道府県 (N=47)			指定都市 (N=12)			中核市等 (N=16)			全地研 (N=75)		
		検査中	検査可能	検査できない	検査中	検査可能	検査できない	検査中	検査可能	検査できない	検査中	検査可能	検査できない
無機汚染物質	カドミウム	33	13	1 ( 2)	12	0	0 ( 0)	11	5	0 ( 0)	56	18	1 ( 1)
	総水銀	30	16	1 ( 2)	11	0	1 ( 8)	11	4	1 ( 6)	52	20	3 ( 4)
	メチル水銀	16	21	10 ( 21)	5	6	1 ( 8)	4	6	6 ( 38)	25	33	17 ( 23)
	鉛	30	16	1 ( 2)	12	0	0 ( 0)	10	6	0 ( 0)	52	22	1 ( 1)
	ヒ素	27	18	2 ( 4)	11	1	0 ( 0)	11	5	0 ( 0)	49	24	2 ( 3)
	スズ	20	23	4 ( 9)	10	2	0 ( 0)	10	6	0 ( 0)	40	31	4 ( 5)
	ホウ素	6	30	11 ( 23)	2	5	5 ( 42)	0	5	11 ( 69)	8	40	27 ( 36)
	フッ素	6	27	14 ( 30)	1	6	5 ( 42)	0	4	12 ( 75)	7	37	31 ( 41)
	クロム	11	28	8 ( 17)	3	8	1 ( 8)	4	6	6 ( 38)	18	42	15 ( 20)
	ニッケル	7	32	8 ( 17)	2	9	1 ( 8)	2	6	8 ( 50)	11	47	17 ( 23)
有機汚染物質	PCB	25	15	7 ( 15)	11	1	0 ( 0)	9	2	5 ( 31)	45	18	12 ( 16)
	PCT	0	19	28 ( 60)	1	2	9 ( 75)	0	0	16 (100)	1	21	53 ( 71)
	ダイオキシン類	5	7	35 ( 74)	3	1	8 ( 67)	0	0	16 (100)	8	8	59 ( 79)
	有機スズ化合物	24	17	6 ( 13)	8	3	1 ( 8)	9	2	5 ( 31)	41	22	12 ( 16)
	ベンゾ (a) ピレン	0	25	22 ( 47)	2	6	4 ( 33)	2	2	12 ( 75)	4	33	38 ( 51)
	ニトロソアミン	1	17	29 ( 62)	0	4	8 ( 67)	0	1	15 ( 94)	1	22	52 ( 69)
	ジエチレングリコール	0	34	13 ( 28)	2	5	5 ( 42)	1	9	6 ( 38)	3	48	24 ( 32)
	メタノール	6	32	9 ( 19)	6	5	1 ( 8)	3	7	6 ( 38)	15	44	16 ( 21)
天然汚染物質	アフラトキシン	16	4	27 ( 57)	7	2	3 ( 25)	4	0	12 ( 75)	27	6	42 ( 56)
	オクラトキシン	2	8	37 ( 79)	2	0	10 ( 83)	0	0	16 (100)	4	8	63 ( 84)
	フザリウムトキシン	1	8	38 ( 81)	1	2	9 ( 75)	0	0	16 (100)	2	10	63 ( 84)
	チトリニン	1	5	41 ( 87)	0	1	11 ( 92)	0	0	16 (100)	1	6	68 ( 91)
	パツリン	3	10	34 ( 72)	4	2	6 ( 50)	1	0	15 ( 94)	8	12	55 ( 73)
	ペニシリン酸	0	7	40 ( 85)	0	2	10 ( 83)	0	0	16 (100)	0	9	66 ( 88)
変質物質	腐敗性アミン	9	29	9 ( 19)	9	3	0 ( 0)	8	4	4 ( 25)	26	36	13 ( 17)
	油脂の酸価、過酸化価	9	32	6 ( 13)	10	2	0 ( 0)	11	4	1 ( 6)	30	38	7 ( 9)
	フェオフォルバイド	1	18	28 ( 60)	2	3	7 ( 58)	0	2	14 ( 88)	3	23	49 ( 65)

■ ④自然毒の検査実施状況 (13項目：表 7-2-4)

植物毒のシアン化合物の検査対応は約 8 割の地研が、また、動物毒の内、フグ毒、麻痺性貝毒、下痢性貝毒は中核市等で低いが全地研では 6～7 割の地研で可能である。しかし、その他の動物毒及び植物毒については 8 割以上の地研で「検査できない」となっている。但し、急性毒性物質、特殊毒性物質に

は多数の検査項目が含まれており、1 つでも検査できない場合は「検査できない」扱いとしている。

「検査できない」理由は、「検査の必要 (需要) が無い」と「他機関が検査を行うことになっている」が最も多く、次いで「標準品を保有していない」、「検査技術を持っている者がいない」であった。

表 7-2-4 自然毒の検査実施状況

地研数 (%)

検査実施状況 感染症名		都道府県 (N=47)			指定都市 (N=12)			中核市等 (N=16)			全地研 (N=75)		
		検査中	検査可能	検査できない	検査中	検査可能	検査できない	検査中	検査可能	検査できない	検査中	検査可能	検査できない
動物毒	麻痺性貝毒	30	8	9 ( 19)	8	1	3 ( 25)	3	1	12 ( 75)	41	10	24 ( 32)
	下痢性貝毒	26	12	9 ( 19)	8	1	3 ( 25)	2	1	13 ( 81)	36	14	25 ( 33)
	シガテラ	1	11	35 ( 74)	0	0	12 (100)	0	0	16 (100)	1	11	63 ( 84)
	ベネルーピン中毒	0	0	47 (100)	0	0	12 (100)	0	0	16 (100)	0	0	75 (100)
	記憶喪失性貝毒	3	1	43 ( 91)	0	0	12 (100)	1	0	15 ( 94)	4	1	70 ( 93)
	テトラミン中毒	5	8	34 ( 72)	0	5	7 ( 58)	0	0	16 (100)	5	13	57 ( 76)
	パリトキシシン中毒	0	2	45 ( 96)	0	1	11 ( 92)	0	0	16 (100)	0	3	72 ( 96)
	巻き貝バイ中毒	2	6	39 ( 83)	0	2	10 ( 83)	0	0	16 (100)	2	8	65 ( 87)
植物毒	きのこ毒	0	7	40 ( 85)	0	2	10 ( 83)	0	0	16 (100)	0	9	66 ( 88)
	シアン (青酸) 化合物	4	34	9 ( 19)	9	2	1 ( 8)	6	7	3 ( 19)	19	43	13 ( 17)
	急性毒性物質	2	11	34 ( 72)	0	1	11 ( 92)	0	0	16 (100)	2	12	61 ( 81)
	特殊毒性物質	0	7	40 ( 85)	0	0	12 (100)	0	0	16 (100)	0	7	68 ( 91)

#### ■ ⑤ 動物用医薬品の検査実施状況 (29 項目：表 7-2-5)

早くから告示で検査法が示されているテトラサイクリン系の抗生物質、合成抗菌剤のスルファジミジン及び内寄生虫用剤のフルベンダゾールは、9割前後の地研で検査対応できる。これらの3項目を除く26物質の平均検査対応率は、指定都市で63%、都道府県で35%、中核市等で13%、全地研では35%であった。

「検査できない」理由は、「検査の必要(需要)がない」、「他機関が検査を行うことになっている」の2回答、及び「標準品を保有していない」が多く、次いで「人的余裕がない」であった。

#### ■ ⑥ 遺伝子組換え食品の検査実施状況 (3 項目：表 7-2-6)

全地研では半数の地研で検査対応できる状況にある。指定都市での検査対応が最も高く、3食品とも

に約7割の地研で検査対応ができ、次いで都道府県、中核市等の順となっている。

「検査できない」理由は、「検査に必要な機器または設備を保有していない」が多く、次いで、「人的余裕がない」と「検査技術を持っている者がいない」がほぼ同数であった。

#### ■ ⑦ 食物アレルギーの検査実施状況 (5 食品：表 7-2-7)

全地研では半数の地研で検査対応できる状況にある。所属自治体別にみると、指定都市が最も高く、次いで都道府県、中核市等となっている。

「検査できない」理由は、「検査に必要な機器または設備を保有していない」が非常に多く、次いで、「人的余裕がない」と「検査技術を持っている者がいない」がほぼ同数であり、これは遺伝子組換え食品と同じ傾向であった。



表 7-2-5 動物用医薬品の検査実施状況

地研数 (%)

検査実施状況		都道府県 (N=47)			指定都市 (N=12)			中核市等 (N=16)			全地研 (N=75)		
		検査中	検査可能	検査できない	検査中	検査可能	検査できない	検査中	検査可能	検査できない	検査中	検査可能	検査できない
抗生物質	オキシテトラサイクリン、クロルテトラサイクリン、テトラサイクリン	34	10	3 ( 6)	12	0	0 ( 0)	13	0	3 ( 19)	59	10	6 ( 8)
	ゲンタマイシン	3	18	26 ( 55)	2	3	7 ( 58)	0	0	16 (100)	5	21	49 ( 65)
	ストレプトマイシン、ジヒドロストレプトマイシン	6	15	26 ( 55)	5	2	5 ( 42)	0	0	16 (100)	11	17	47 ( 63)
	スピラマイシン	14	9	24 ( 51)	8	1	3 ( 25)	3	1	12 ( 75)	25	11	39 ( 52)
	スペクチノマイシン	2	14	31 ( 66)	2	3	7 ( 58)	0	0	16 (100)	4	17	54 ( 72)
	セフトオフル	2	12	33 ( 70)	2	2	8 ( 67)	0	0	16 (100)	4	14	57 ( 76)
	チルミコシン	6	9	32 ( 68)	3	3	6 ( 50)	1	0	15 ( 94)	10	12	53 ( 71)
	ネオマイシン	2	14	31 ( 66)	2	3	7 ( 58)	0	1	15 ( 94)	4	18	53 ( 71)
ベンジルペニシリン	10	11	26 ( 55)	7	2	3 ( 25)	1	0	15 ( 94)	18	13	44 ( 59)	
合成抗菌剤	キノキサリン-2-カルボン酸 (カルバドックス)	8	20	19 ( 40)	9	2	1 ( 8)	7	2	7 ( 44)	24	24	27 ( 36)
	サラフロキサシン	2	10	35 ( 74)	1	5	6 ( 50)	1	0	15 ( 94)	4	15	56 ( 75)
	スルファジミジン	34	9	4 ( 9)	11	1	0 ( 0)	12	1	3 ( 19)	57	11	7 ( 9)
	ダノフロキサシン	2	11	34 ( 72)	2	4	6 ( 50)	1	0	15 ( 94)	5	15	55 ( 73)
*	シロマジン	3	9	35 ( 74)	1	4	7 ( 58)	0	1	15 ( 94)	4	14	57 ( 76)
内寄生虫用剤	イソメタミジウム	3	7	37 ( 79)	5	2	5 ( 42)	0	1	15 ( 94)	8	10	57 ( 76)
	イベルメクチン	6	14	27 ( 57)	8	2	2 ( 17)	3	1	12 ( 75)	17	17	41 ( 55)
	クロサンテル	5	13	29 ( 62)	7	3	2 ( 17)	1	1	14 ( 88)	13	17	45 ( 60)
	ジクラズリル	2	12	33 ( 70)	3	3	6 ( 50)	2	0	14 ( 88)	7	15	53 ( 71)
	チアベンダゾール	21	15	11 ( 23)	11	0	1 ( 8)	4	4	8 ( 50)	36	19	20 ( 27)
	トリクラベンダゾール	4	12	31 ( 66)	6	3	3 ( 25)	0	1	15 ( 94)	10	16	49 ( 65)
	ナイカルバジン	20	8	19 ( 40)	9	1	2 ( 17)	5	0	11 ( 69)	34	9	32 ( 43)
	フルベンダゾール	26	16	5 ( 11)	12	0	0 ( 0)	10	2	4 ( 25)	48	18	9 ( 12)
	5-プロピルスルホニル-1H-ベンズイミダゾール-2-アミン (アルベンダゾール)	8	5	34 ( 72)	8	1	3 ( 25)	2	1	13 ( 81)	18	7	50 ( 67)
	モキシデクテン	2	7	38 ( 81)	5	2	5 ( 42)	1	1	14 ( 88)	8	10	57 ( 76)
レバミゾール	2	8	37 ( 79)	2	3	7 ( 58)	1	1	14 ( 88)	5	12	58 ( 77)	
**	エプリノメクチン	1	5	41 ( 87)	4	3	5 ( 42)	1	0	15 ( 94)	6	8	61 ( 81)
ホルモン剤	ゼラノール	6	9	32 ( 68)	7	3	2 ( 17)	1	1	14 ( 88)	14	13	48 ( 64)
	αトレンボロン	6	7	34 ( 72)	6	3	3 ( 25)	1	1	14 ( 88)	13	11	51 ( 68)
	βトレンボロン	7	6	34 ( 72)	7	3	2 ( 17)	1	1	14 ( 88)	15	10	50 ( 67)

\* ; 殺虫剤      \*\* ; 内部・外部寄生虫用剤

表 7-2-5 動物用医薬品の検査実施状況

地研数 (%)

検査実施状況 感染症名		都道府県 (N=47)			指定都市 (N=12)			中核市等 (N=16)			全地研 (N=75)		
		検査中	検査可能	検査できない	検査中	検査可能	検査できない	検査中	検査可能	検査できない	検査中	検査可能	検査できない
抗 生 物 質	オキシテトラサイクリン、 クロルテトラサイクリン、 テトラサイクリン	34	10	3 ( 6)	12	0	0 ( 0)	13	0	3 ( 19)	59	10	6 ( 8)
	ゲンタマイシン	3	18	26 ( 55)	2	3	7 ( 58)	0	0	16 (100)	5	21	49 ( 65)
	ストレプトマイシン、ジヒ ドロストレプトマイシン	6	15	26 ( 55)	5	2	5 ( 42)	0	0	16 (100)	11	17	47 ( 63)
	スピラマイシン	14	9	24 ( 51)	8	1	3 ( 25)	3	1	12 ( 75)	25	11	39 ( 52)
	スペクチノマイシン	2	14	31 ( 66)	2	3	7 ( 58)	0	0	16 (100)	4	17	54 ( 72)
	セフチオフル	2	12	33 ( 70)	2	2	8 ( 67)	0	0	16 (100)	4	14	57 ( 76)
	チルミコシン	6	9	32 ( 68)	3	3	6 ( 50)	1	0	15 ( 94)	10	12	53 ( 71)
	ネオマイシン	2	14	31 ( 66)	2	3	7 ( 58)	0	1	15 ( 94)	4	18	53 ( 71)
ベンジルペニシリン	10	11	26 ( 55)	7	2	3 ( 25)	1	0	15 ( 94)	18	13	44 ( 59)	
合 成 抗 菌 剤	キノキサリン-2-カルボン 酸 (カルバドックス)	8	20	19 ( 40)	9	2	1 ( 8)	7	2	7 ( 44)	24	24	27 ( 36)
	サラフロキサシン	2	10	35 ( 74)	1	5	6 ( 50)	1	0	15 ( 94)	4	15	56 ( 75)
	スルファジミジン	34	9	4 ( 9)	11	1	0 ( 0)	12	1	3 ( 19)	57	11	7 ( 9)
	ダノフロキサシン	2	11	34 ( 72)	2	4	6 ( 50)	1	0	15 ( 94)	5	15	55 ( 73)
*	シロマジン	3	9	35 ( 74)	1	4	7 ( 58)	0	1	15 ( 94)	4	14	57 ( 76)
内 寄 生 虫 用 剤	イソメタミジウム	3	7	37 ( 79)	5	2	5 ( 42)	0	1	15 ( 94)	8	10	57 ( 76)
	イベルメクチン	6	14	27 ( 57)	8	2	2 ( 17)	3	1	12 ( 75)	17	17	41 ( 55)
	クロサンテル	5	13	29 ( 62)	7	3	2 ( 17)	1	1	14 ( 88)	13	17	45 ( 60)
	ジクラズリル	2	12	33 ( 70)	3	3	6 ( 50)	2	0	14 ( 88)	7	15	53 ( 71)
	チアベンダゾール	21	15	11 ( 23)	11	0	1 ( 8)	4	4	8 ( 50)	36	19	20 ( 27)
	トリクラベンダゾール	4	12	31 ( 66)	6	3	3 ( 25)	0	1	15 ( 94)	10	16	49 ( 65)
	ナイカルバジン	20	8	19 ( 40)	9	1	2 ( 17)	5	0	11 ( 69)	34	9	32 ( 43)
	フルベンダゾール	26	16	5 ( 11)	12	0	0 ( 0)	10	2	4 ( 25)	48	18	9 ( 12)
	5-プロピルスルホニル-1H- ベンズイミダゾール-2-ア ミン (アルベンダゾール)	8	5	34 ( 72)	8	1	3 ( 25)	2	1	13 ( 81)	18	7	50 ( 67)
	モキシデクチン	2	7	38 ( 81)	5	2	5 ( 42)	1	1	14 ( 88)	8	10	57 ( 76)
レバミゾール	2	8	37 ( 79)	2	3	7 ( 58)	1	1	14 ( 88)	5	12	58 ( 77)	
**	エプリノメクチン	1	5	41 ( 87)	4	3	5 ( 42)	1	0	15 ( 94)	6	8	61 ( 81)
ホル モン 剤	ゼラノール	6	9	32 ( 68)	7	3	2 ( 17)	1	1	14 ( 88)	14	13	48 ( 64)
	αトレンボロン	6	7	34 ( 72)	6	3	3 ( 25)	1	1	14 ( 88)	13	11	51 ( 68)
	βトレンボロン	7	6	34 ( 72)	7	3	2 ( 17)	1	1	14 ( 88)	15	10	50 ( 67)

\* ; 殺虫剤      \*\* ; 内部・外部寄生虫用剤

表 7-2-6 遺伝子組換え食品の検査実施状況

地研数 (%)

検査実施状況 感染症名	都道府県 (N=47)			指定都市 (N=12)			中核市等 (N=16)			全地研 (N=75)		
	検査中	検査可能	検査できない	検査中	検査可能	検査できない	検査中	検査可能	検査できない	検査中	検査可能	検査できない
大豆加工品	24	6	17 (36)	8	0	4 (33)	2	1	13 (81)	34	7	34 (45)
じゃがいも加工品	14	9	24 (51)	4	5	3 (25)	0	1	15 (94)	18	15	42 (56)
とうもろこし加工品	22	6	19 (40)	8	1	3 (25)	1	1	14 (88)	31	8	36 (48)

表 7-2-7 食物アレルギーの検査実施状況

地研数 (%)

検査実施状況 感染症名	都道府県 (N=47)			指定都市 (N=12)			中核市等 (N=16)			全地研 (N=75)		
	検査中	検査可能	検査できない	検査中	検査可能	検査できない	検査中	検査可能	検査できない	検査中	検査可能	検査できない
卵	17	7	23 (49)	6	4	2 (17)	1	3	12 (75)	24	14	37 (49)
乳	17	6	24 (51)	7	3	2 (17)	1	2	13 (81)	25	11	39 (52)
小麦	14	11	22 (47)	6	3	3 (25)	2	2	12 (75)	22	16	37 (49)
そば	17	10	20 (43)	4	4	4 (33)	3	2	11 (69)	24	16	35 (47)
落花生	13	12	22 (47)	2	6	4 (33)	1	3	12 (75)	16	21	38 (51)

## ■ ⑧放射能の検査実施状況 (2項目: 表 7-2-8)

都道府県と指定都市の地研では半数の地研が検査対応しているが、中核市等では殆ど対応していない。

「検査できない」理由をみると、「検査の必要 (需

要)がない」、「他機関が検査を行うことになっている」、「検査に必要な機器または設備を保有していない」の3つが多い。

表 7-2-8 放射能の検査実施状況

地研数 (%)

検査実施状況 感染症名	都道府県 (N=47)			指定都市 (N=12)			中核市等 (N=16)			全地研 (N=75)		
	検査中	検査可能	検査できない	検査中	検査可能	検査できない	検査中	検査可能	検査できない	検査中	検査可能	検査できない
放射性セシウム	15	9	23 (49)	6	1	5 (42)	1	0	15 (94)	22	10	43 (57)
放射性ヨウ素	13	10	24 (51)	0	4	8 (67)	0	0	16 (100)	13	14	48 (64)

## ■ ⑨異物の検査実施状況 (4項目: 表 7-2-9)

ほぼ半数の地研で検査対応している。所属自治体別の4項目平均検査対応は、都道府県が52%、指定都市が60%、中核市等が31%となっている。

「検査できない」理由は、「検査に必要な機器または設備を保有していない」と「検査技術を持っている者がいない」が多く、次いで「人的余裕がない」であった

表 7-2-9 異物の検査実施状況

地研数 (%)

検査実施状況	都道府県 (N=47)			指定都市 (N=12)			中核市等 (N=16)			全地研 (N=75)		
	検査中	検査可能	検査できない	検査中	検査可能	検査できない	検査中	検査可能	検査できない	検査中	検査可能	検査できない
動物性異物	10	16	21 (45)	3	4	5 (42)	3	3	10 (63)	16	23	36 (48)
植物性異物	6	16	25 (53)	3	5	4 (33)	2	3	11 (69)	11	24	40 (53)
鉱物性異物	6	18	23 (49)	3	4	5 (42)	2	2	12 (75)	11	24	40 (53)
繊維状異物	5	20	22 (47)	3	4	5 (42)	2	3	11 (69)	10	27	38 (51)

## 2) 水道水に関する検査実施状況

## ■ ①水質基準項目、水質管理設定項目及び要検討項目の検査実施状況 (217項目: 表 7-2-10)

水質基準 50 項目については、指定都市と中核市等の平均の検査対応項目が各々 43.3, 42.5 項目で 85% 以上であるのに対し、都道府県の検査対応は 36 項目 (72%) とやや低くなっている。

これに対し、水質管理設定項目 (農薬を含む 127 項目) の検査対応できる率は、都道府県 > 指定都市 > 中核市等と逆転しており、検査機器の整備や検査の煩雑性の問題及び緊急性の面から、これらの項目については都道府県が検討を先行して進めているこ

とが推察できる。また、要検討項目 (40 項目) については、対応率が低くなっている。

基準項目の「検査できない」理由は、「検査に必要な機器または設備を保有していない」、「検査の必要 (需要) がない」、「他機関が検査を行うことになっている」が多かった。

管理設定項目と要検討項目の「検査できない」理由は、「検査に必要な機器または設備を保有していない」、「検査の必要 (需要) がない」、「他機関が検査を行うことになっている」が多く、この点は基準項目と同じであったが、「標準品を保有していない」を理由としているところが 2 ~ 3 倍に増えた。

表 7-2-10 水質基準項目、水質管理設定項目及び要検討項目の検査実施状況

( ) 内は項目数に対する %

検査実施状況	都道府県 N=47	指定都市 N=12	中核市等 N=16	全地研 N=75
水質基準項目 (50 項目) のうち検査実施中の項目数	19.4 (39)	37.0 (74)	30.1 (60)	24.5 (49)
水質基準項目 (50 項目) のうち検査可能な項目数	16.6 (33)	6.3 (13)	12.4 (25)	14.1 (28)
水質基準項目 (50 項目) のうち検査できない項目数	14.0 (28)	6.7 (13)	7.5 (15)	11.5 (23)
水質管理設定項目 (農薬類を除く 26 項目) のうち検査実施中の項目数	9.0 (35)	7.3 (28)	5.4 (21)	8.0 (31)
水質管理設定項目 (農薬類を除く 26 項目) のうち検査可能な項目数	7.6 (29)	8.2 (32)	7.6 (29)	7.7 (30)
水質管理設定項目 (農薬類を除く 26 項目) のうち検査できない項目数	9.4 (36)	10.5 (40)	12.9 (50)	10.3 (40)
水質管理設定項目 (農薬類 101 項目) のうち検査実施中の項目数	19.0 (19)	3.4 ( 3)	0.2 ( 0)	12.5 (12)
水質管理設定項目 (農薬類 101 項目) のうち検査可能な項目数	24.6 (24)	25.2 (25)	10.8 (11)	21.7 (21)
水質管理設定項目 (農薬類 101 項目) のうち検査できない項目数	57.5 (57)	72.4 (72)	90.0 (89)	66.8 (66)
要検討項目 (40 項目) のうち検査実施中の項目数	1.9 ( 5)	0.3 ( 1)	0.0 ( 0)	1.2 ( 3)
要検討項目 (40 項目) のうち検査可能な項目数	7.8 (20)	9.3 (23)	2.3 ( 6)	6.9 (17)
要検討項目 (40 項目) のうち検査できない項目数	30.3 (76)	30.3 (76)	37.7 (94)	31.9 (80)

## ■ ②水道水に関する他の検査実施状況 (20 項目: 表 7-2-11)

大腸菌 O-157、レジオネラ属菌に関しては、中核

市等では全ての地研が検査対応でき、都道府県、指定都市でも 9 割近い地研が対応できる。

また、浮遊物質、DO、COD、BOD、総リン及